

青森田中学園報 *

こぶしの花^{*}



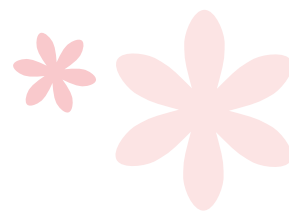
新しくなった「正門ひろば^{en}(えん)」

特集 * 教育の最適化とグローバル化を推進する青森田中学園版DX ... 2

青森中央学院大学	6
青森中央短期大学	8
青森中央経理専門学校／青森中央文化専門学校	10
附属第一・第二・第三幼稚園／中央文化保育園／浦町保育園	12
学園共通	14

vol.
109

教育の最適化と グローバル化を推進する 青森田中学園版DX



基幹教育センター長・教授 大泉 常長

2021年度より学園組織として設置された「基幹教育センター」では、2018年11月に中央教育審議会から出された「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」等が示す教育内容について、本学園での実施および発展を目指しています。本学園では、2022年度新入生からノートパソコンの必携化をスタートさせ、高度な情報処理能力が求められる情報化社会においてICTを活用する能力を有する人材を輩出するための教育

体制およびサポート体制を再構築中です。

また、2022年度からは、現代社会におけるICTの急速な進化によってもたらされるビッグデータを読み解き、知見を導き出すための「数理データサイエンス・AI教育」を全ての学部・学科のカリキュラムに組み込んでおります。とりわけ、経営法学部においては、2021年度より本格始動した「グローバル人材養成プログラム」にこの分野の教育を盛り込み、高い技能の習得を目指す学生に対して、「データ分析実践プログラム」を実施しています。こうした新たな教育環境の下で培われた研究成果は、学外の発表会等においても大変高い評価を受けています。



▲ ノートパソコン必携で行われる新入生ガイダンス

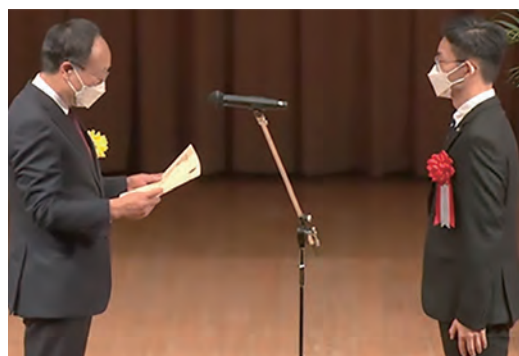
* 青森中央学院大学「データ分析実践プログラム」始動

経営法学部准教授 山本 俊

青森中央学院大学では、2022年度より、数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムが示す「モデルカリキュラム」などを踏まえ、AI・数理・データサイエンスに関する教育を推進しています。その中でも、データを分析する能力は、コンピュータの利用スキルとともに、社会人にとって基本的なものとなりつつあり、こうした能力の修得を目指し、「データ分析実践プログラム」を実施しています。

このプログラムでは、データ分析に関連する複数の授業科目を通じて、データ分析の基本を身に付けると同時に、学外のONLINE講座の受講によって、AIやビッグデータ分析の仕組みや応用例を学び、学内講座によって多様なデータ分析手法を実践的に学びます。こうしたプログラムを優れた成績にて修了した学生には、大学より修了証も授与されます。

プログラムの受講者の中には、身に付けたデータ分析力を基に、総務省などが共催する「統計データ分析コンペティション」に応募し、「優秀賞」を得た学生もあり、データ分析に関する自信の創出にもつながっています。



▲ 「優秀賞」を受賞した経営法学部3年(当時)のTENG YU ZHEさん

*「グローバル人材養成プログラム」について

「グローバル人材」とは、複数の国をまたがるビジネスにおいて成果を出すことのできる人材です。青森中央学院大学経営法学部では、将来ビジネスで通用する語学力やデータサイエンス能力、コミュニケーション能力を持つ優秀な人材を育成するための基礎的なプログラムを設置し、TOEICやプレースメントテストにより選抜された学生が受講しています。

国際ビジネスについて学ぶ「グローバル特講」と専門ゼミ

経営法学部教授 井原 孝延

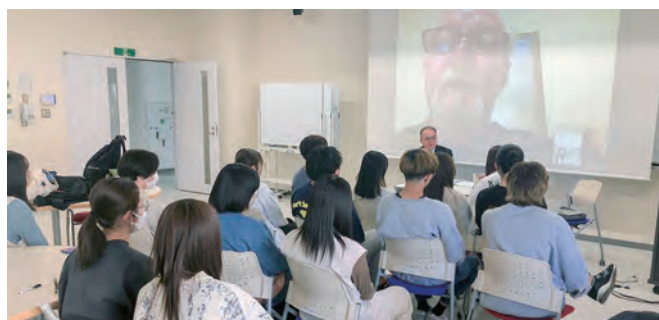
経営法学部1年から3年までの「グローバル特講」と3年の専門ゼミを担当しています。

大学入学直後はグローバルとは無縁だと思った学生もいたと思いますが、2年生になる頃には、自分が「世界のどこにいてもグローバル社会の一員である」ことが分かります。

この授業では、社会、経済情報を分析、グループ討論のあと、個人見解を日本語と英語でまとめることに重点を置きます。そ

のためのコミュニケーションのツールとして、「実践英語力」が必須です。また、学生の“武者修行”として、海外ビジネスマンとオンライン意見交換を行います。初めて対面する人に対しても、正々堂々と自分の意見を述べることを目指します。

3年生の専門ゼミは少人数になりますが、海外インターシップや各自のテーマ研究、実践英語の飛躍的向上を目指しています。



▲ グローバル特講でのオンライン会議

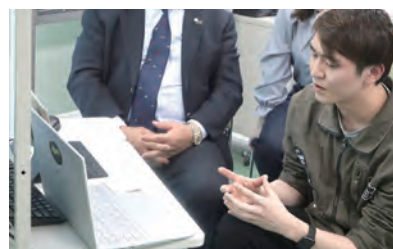


▲ 海外事業家と会話するグローバルゼミの様子

受講生感想

* グローバルゼミでは、入学してからすぐに海外のマーケット戦略や過去のトレンドについて叩き込まれます。このことは、今のトレンドに捉われることなく、柔軟な発想力を育むことに直結します。また、授業では海外事業家の方々とオンラインで話し合えます。リモートを「これでもか」と活用し、最新の産業形態や海外事業について触れることができます。日本にいながら世界最先端のトレンドを学べること、教科書では理解しづらい文化背景なども直に感じられることがこのゼミの最大のメリットだと思うとともに、私にはとても新鮮でした。私はインドにあるグローバルスクールでのインターンシップを考えています。そこでは、広報や情報伝達のより良い方法などを学びたいと思っています。インターンシップを計画して実行するために、独自の検証やアンケートなどによる調査研究を行い、情報を得ることが必要です。このゼミで学ぶことは、自分の将来像に大きく影響を与えていると感じています。

(経営法学部3年 貝塚 祥)



▲ 海外事業家とオンラインで話す貝塚さん

所属学生による「データ分析実践プログラム」修了

経営法学部准教授 山本 俊

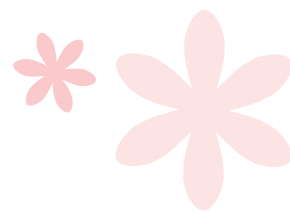


▲ 指導教員と修了生の山本佳太さん八代結衣さん

グローバル人材養成プログラムでは、受講生にデータ分析能力の修得も求めています。受講生は1年生から2年生にかけて、データ分析を実践的に学び、学外の研究発表大会等において、データ分析を活かした研究成果を発表しています。

こうしたグローバル人材養成プログラム所属学生の中には、2022年度から本学において始まった「データ分析実践プログラム」を受講し、さらなる分析力の向上に取り組む学生もいます。そのうち、2名の学生が「データ分析実践プログラム」を優れた成績にて修了し、修了証を得ることができました。

* **修了生感想:** プログラムの一貫で受講した学外講座では、他大学の学生さんと課題を添削し合うことで、データやAIに関する知識を深めることができました。また、学内講座では、テキストマイニングやパネル回帰分析などの手法を実践的に学ぶことができました。最後の個別課題も楽しみながらこなすことができました。(経営法学部3年 八代 結衣)



* 青森田中学園の学びの幅が広がっています

七戸高校へ簿記講座の配信を行っています

学習支援センター副センター長 木田 孝夫

学習支援センターでは、簿記や販売士等の各種資格試験対策のエクステンション講座を通年開講しています。中でも「日商簿記検定3級試験対策講座」は、青森中央学院大学の学生とともに、希望する青森県立七戸高等学校の生徒さんもオンライン配信を利用して受講しています。

オンライン配信実施にあたり、高校生も本学学生と同じ教材およびZoomの画面共有機能を利用して、本学の環境に近い状態で受講が可能となりました。これまで簿記の授業は、教室での板書による帳簿等の書き起こしに時間を

要していましたが、事前作成したExcel等の教材投影によって、授業進行もたいへん効率的になっています。

4月～6月の内容は、6月の検定試験に向けた対策講座でした。定期試験や部活動などでスケジュールが合わないこともありますが、自主学習しながら本学の学生とともに学びました。

簿記に興味を持ち、高校の授業だけではなくレベルアップを目指す高校生に向けて、今後も配信していきます。



看護師特定行為研修は放送大学学園と連携しています

看護実践センター長・教授 一戸 とも子

青森中央学院大学の看護師特定行為研修では、2022年10月に入講した3期生5名がeラーニングとスクーリングの講義・演習を終え、2023年9月の研修修了を目指して、5月から各協力病院で実習に励んでいます。また、4期生の募集も開始しています。

本学では、より良い研修を目指し、研修内容の点検評価により研修計画の工夫・改善を常に行っています。特定行為研修は、全ての特定行為区分に共通する「共通科目」と特定行為区分ごとに異なる「区分別科目」から構成されています。このたび本学では、前者の教材について見直しを行い、今年度の3期生から放送大学に変更しました。そのため、2022年10月に本学と放送大学学園は連携協定を締結しました。

これにより研修生は、放送大学大学院修士課程に入学することとなり、本学の研修で修得した単位が、放送大学修士課程の既修得単位として認定されます。特定行為研修の受講をお考えの皆様には、働きながら学べて単位認定もかなう本学での研修に、挑戦いただければ幸いです。



▲ 入講式後のオリエンテーションにて



▲ オンライン開催による研修修了生の活動報告



グエン・タット・ティン大学との連携

青森中央短期大学幼児保育学科准教授 兼平 友子

この度、青森中央学院大学と青森中央短期大学は、ベトナム・ホーチミン市の総合大学グエン・タット・ティン大学 (Nguyen Tat Thanh University 略称:NTTU)と学術交流協定を締結しました。

2023年4月、交流事業として、NTTUのグエン・アン・フォン副学長が、幼児保育学科1年生の授業「教育総論」(兼平担当)において、ベトナムの幼児教育についての講義を行いました。主にベトナム幼児教育で主流として取り組まれている子どもの自立を促す「モンテッソーリ教育」、最新の「STEAM教育」への取り組みについて、現地の幼稚園での実際の動画を交えながらの講義でした。

講義を受けて学生は「生活に直結した保育内容があり、自

分も取り組んでみたいと思った」、「子どものニーズ・能力に合わせた環境作りが大事だということが分かった」、「自分たちの住んでいる地域の問題点を子どもたちと考えていくという取り組みに興味を持った」、「保育者が学び続けることの大切さを改めて感じた」等と感想を持っており、日本の幼児教育の類似点や相違点等様々な学びがあったようでした。

今回のように他国の教育について知ることを通して、学生の視野を広げ、柔軟な考えを持った保育者となってほしいと思っています。これからはもっと多くの相互の持っている資源を活用した交流事業を展開し、柔軟・多様な考えを持ったグローバル人材を育てていきたいと思っています。



▲ 本学にて学術交流協定(MOA)を締結



▲ 講義をするグエン・アン・フォン副学長



▲ 講義ではベトナムの幼児教育について紹介

社会人学生にも国家資格習得のチャンス

青森中央短期大学専攻科福祉専攻主任・准教授 伊藤 弓月

2023年度の専攻科福祉専攻では、青森中央短期大学の幼児保育学科を卒業した4名の学生に加え、社会福祉法人・和幸園より保育士資格を有する3名の社会人学生が入学し、介護福祉士の資格取得を目指しながら日々介護の勉強に取り組んでいます。これは本学と社会福祉法人・和幸園との連携のもと、2023年度から専攻科福祉専攻でオンデマンド講義(録画された講義の視聴)を取り入れた新たなカリキュラムがスタートしたことによるものです。

専攻科福祉専攻の講義は全て午後からの開始とし、午前

中講義分についてはオンデマンド方式での実施となったことによって、各自が自由なタイミングで視聴しながら勉強しています。このことにより、社会人学生3名は午前中に保育所等で勤務した後、午後からは本学の学生として講義を受ける、また他の4名の学生は午前の時間を自由に使えるなど、幅広い学び方が可能となっています。

今年度から始まった新たな取り組みの元、専攻科福祉専攻では介護福祉士国家試験の全員合格を目指していきます!



▲ 今年度の学生たち



▲ 短大のコミュニティファームで午後に行われた「介護過程」の授業

地域防災を学ぶ 学生が調査した 石碑が地理院地図に掲載



経営法学部准教授 中村 智行

日本は、昔から数多くの自然災害に見舞われ、被害を受けるたびに先人はその様子や教訓を石碑に刻み後世に遺してくれました。私が担当する科目「地域探究アクト」では、このような石碑が青森県にもあるのではと考え、学生たちと一緒にフィールドワークを行っています。

2022年10月には大仏公園（弘前市）にある「洪水の石碑」を調査し、2023年3月に国の地理院地図に「自然災害伝承碑」として登録されました。地域でも忘れ去られていた石碑が、このような活動を通して地図に掲載されたことは喜ばしく、学生達にとっても非常に有益な成果となりました。

今後は、この「自然災害伝承碑」が教育分野でも活用されるよう働きかけていきます。「地域探究アクト」では、引き続き「自然災害伝承碑」になりうる石碑の調査を通じて、地域に貢献できるような活動を行っています。



▲ 国土地理院の「自然災害伝承碑」に登録された石碑



▲ 現地調査の様子

青森学生団体ディベラボの 商品開発



経営法学部3年 齋藤 玲

2023年3月、私たちは、外ヶ浜町にある大平山元遺跡とコラボして3つの商品を開発しました。開発した商品は「オリジナルドリップバックコーヒー」、「縄文ベグル」、「ようもんゆり大平山元遺跡バージョン」です。商品のコンセプトとしては、縄文らしさをなるべく出すことができるようにということで作りました。特に縄文ベグルに関しては、生地にどんぐり粉を使用し、当時あったであろう針葉樹からなるマツの実、外ヶ浜町で作られている鮭とばを入れ、縄文らしさと外ヶ浜町の要素を詰め込みました。

商品開発報告会（試食会）の反応はとても良かったと感じました。大勢の人前で発表をするという緊張で一杯一杯でしたが、外ヶ浜町長からお褒めのお言葉をいただいた時の嬉しい気持ちは今でも忘れられません。青森の羊毛でできた起き上がりこぼし人形「ようもんゆり」については、作成した先輩の意志を受け継ぎ、今後とも様々な形で販売していきたいと考えています。



▲ 大平山元遺跡コラボ商品と、小牧野遺跡とコラボした「ようもんゆり」



▲ インタビューに答える山崎町長とメンバー（町長の隣に齋藤さん）

研究室紹介

経営法学部准教授 園部 正人 研究室



2023年4月に経営法学部に着任いたしました。知的財産法、特に著作権法の差止請求権について研究をしております。私の肌感覚として、著作権法に関心をお持ちの方の数は近年着実に増えてきたと思います。これは本当に嬉しいことです。

一方、その関心が「身を守る」という問題意識に基づいている方も多いように感じています。

これはおそらく、私たちが日々触れるニュースに、侵害の摘発事例や、著作権法にかかるリスクに焦点を当てたものが多いからであろうと思います。確かに著作権法には怖い一面があります。自分や周りの人たちを守るために法律を学び、知識を身につけるということは大切です。しかし、著作権法というのは、本来、人々の創作活動を促すことを目的とするものであって、私たちの行動を制約すること自体を目的としているわけではありません。そうしてみると、著作権法のまた違った顔も見えてくると思います。

このように、著作権法には怖い一面も、そうでない一面もあります。その両方を見据えて、よりよい権利保護のあり方や運用を探っていく。学生さんや地域の皆様とともに、私もそのような仕事をしていきたいと考えています。



経営法学部2年生の「専門演習Ⅰ」にて



早稲田大学で行われた「立教大学・早稲田大学親善ディベート大会」にて

「チームケア論」での多職種 インタビューを通して



看護学部3年 福士 翔隆

「チームケア論」の授業で多職種の方々へのインタビューを通して、職種によって対象者を捉える視点が異なることを知りました。

今回私たちのグループは、社会福祉士の方にインタビューをしました。医師や看護師は対象者の病気や心身の状態を見て直接的にアプローチすることに対して、社会福祉士は対象者と周囲の環境（人間、施設、サービスなど）との関係を見て間接的にアプローチすると伺いました。このことから私は、チームケアでは多職種が一人の対象者を多角的に見て、それぞれの専門知識・技術を最大限活用してサポートすることが重要だと思いました。

また、社会福祉士は対応する相談内容が多い一方で、それによって「何でも屋」のようにとらえられ、バスでの送迎など専門外の相談を引き受けないといけないことも多々あると話していました。多職種の方が一人の患者さんに専門知識・技術を最大限活用するには、まず、他職種の専門性を十分に理解することが必要であると考えます。



▲ インタビューする福士さん(右)



▲ グループ発表の様子

骨髄バンクドナー登録の 説明員に認定されて



看護学部4年 出村 椎希

私は、2023年2月に骨髄バンクドナー登録の説明員として認定を受けました。

日本では毎年1万人近くの方が移植を必要としています。しかし近年、骨髄バンクのドナー登録者は、献血者同様に減少傾向にあり、移植を受けることが出来る方は約6割と言われています。私は献血サークルのサークル長をしていた時にこの現状を知り、今の私でも出来ることをしていきたいと強く思い、説明員になるための講座と実習を受けました。

説明員になってからは、ショッピングモールや献血センターでドナー登録の説明を行いました。ドナー登録者の多くは40歳以上の方ですが、実際にドナーとなる方は、健康上の理由から若年層の方が半数以上を占めています。そのため、一人でも多くの患者さんが移植を受けることが出来るためには、特に20～30代の方の協力が必要です。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



▲ 本学学生に骨髄バンクドナー登録の説明をする出村さん



▲ ショッピングセンターでの骨髄バンクPR活動

国際交流 泰日工業大学サマーキャンプ2023



5月10日から6月5日にかけて、泰日工業大学（タイ王国）の学生12名と引率教員1名が本学の学生寮に滞在し、日本語を学びながら文化を体験して交流するサマーキャンプを4年ぶりに開催しました。

5/11 日本語授業と交流

5月11日の最初の授業では、自分の趣味やタイの文化などを日本語で自己紹介しました。サマーキャンプ滞在中は、本学の学生はじめ地域の方々とコミュニケーションをとれるよう日本語をたくさん学び、学生とも交流しました。



5/13 弘前めぐり

津軽藩ねぶた村にて、ねぶた見学や郷土料理の昼食、ハンカチを染める藍染体験をしました。また、新緑の弘前公園を散策し、「歴史・文化の街ひろさき」を堪能しました。



5/19 青森南高校の生徒との交流会

青森市にある青森南高校のコミュニケーションルームにて、生徒の皆さんと交流しました。あいさつや自己紹介を行い、お互いの文化について発表、ディスカッションを行って交流を深めました。



「郷土と文化」ねぶた囃子練習

食物栄養学科1年 佐藤 千華

幼いころに親に連れられ、青森ねぶた祭りを観に来たことがあります。大きな太鼓の音、鳴り響く笛、遠くまで聞こえる鉦の音、人々の賑わいに驚いた記憶が鮮明に残っていました。

郷土の文化を広く学び、青森ねぶたに参加する『郷土と文化』という授業があります。青森中央短期大学に入学し、囃子方として参加できることにワクワクしています。太鼓の担当と

なり、練習が始まりました。授業以外でも、友達と自主練習をしたいと思っています。まだまだ不慣れですが、本番までに上達して観光客に感動を与えたいです。日本を代表する夏祭り『青森ねぶた祭り』を盛り上げます！

青森中央短期大学は、8月2日・3日に青森ねぶた祭りの運行に参加いたします。



編入学支援と 就学支援金授与式



食物栄養学科助教 外崎 秀香

食物栄養学科52期卒業生2名が編入学試験に合格し、2023年4月より四年制大学の管理栄養士養成課程の学生として、新たな道を歩み始めました。編入学先は、青森県立保健大学健康科学部栄養学科、仙台白百合女子大学健康栄養学科です。

この2名の学生は、栄養士課程の学生として日々の授業や課題にしみながら、寝る間を惜しんで編入学試験の勉強を続け、その結果、合格しました。学科の教員は、ICTを活用しながら、志望理由書の添削や分からない問題の解説、面接練習等、受験ためのサポートを行って参りました。また本学には、学生の経済的負担を軽減するために、編入学先の入学金を半額支給する就学支援金制度があります。

今後も学生の夢を叶えるために、教職員一丸となり、学生の学びをサポートして参ります。



▲ 就学支援金授与式にて

オーストラリア留学に 行ってきました



食物栄養学科2年 比内 美波

1年の春休みを利用して、オーストラリアのリズモアにあるサザンクロス大学に短期留学しました。自然が豊かなところで、道端ですれ違うと笑顔で挨拶してくれる温かい街でした（街のみんながダンスを踊ることができます）。留学中は観光も楽しみました。念願だったオーストラリア固有の動物と触れ合うことができました。

留学の目的は、英語力の向上です。ホストファミリーは、私のつたない英語でもゆっくりと会話してくれました。散歩しながら植物や動物のこと、文化についてたくさん教えてくれました。英語の単語や文法を理解することは大事ですが、何よりも心で会話をするのが大切だということを教えていただきました。

将来は国際栄養士として海外で活躍したいという夢があります。留学を経験して、より一層、夢に近づいたと実感しています。



▲ ホストファミリーとの食事風景



▲ 観光を楽しむ比内さん



「ミライのお仕事体験イベント」を開催しました

食物栄養学科、幼児保育学科、専攻科福祉専攻は、ともに地域といきる大学として、子どもたちにも専門職の素晴らしさを知ってもらおうと2023年3月に「ミライのお仕事体験イベント」を開催しました。このイベントに学生スタッフとして参加した食物栄養学科の村井亜寿華さん、幼児保育学科の瀬川菜生さん、平山月渚さんが青森ケーブルテレビ放映の青森市広報番組AomoLIVE(アオモライブ)に出演し、イベントの様子を紹介しました。

左から村井さん、瀬川さん、平山さん ▶



食物栄養学科では「バランスのよいお弁当はどう作る?」をテーマに、お弁当箱に入る量や献立を考えながら実際にお弁当に詰めてみました。幼児保育学科では「作って学ぼう!保育のおしごと～段ボールハウス作り～」というテーマで、段ボールでの遊具作りを通して子どもの安全について考えてみました。専攻科福祉専攻では「楽しくラクラク介護術・押し花でしおり作り」というテーマで、実際の現場で使われている福祉用具の体験と、横内地区の高齢者の皆さんが育てたお花で作った押し花で、しおり作りにチャレンジしました。

子どもたちだけではなく保護者の方も一緒に参加し、専門職ならではの体験を通して興味、楽しさ、やりがい、関心などを深めました。

食物栄養学科「バランスのよいお弁当はどう作る?」

幼児保育学科「作って学ぼう!保育のおしごと～段ボールハウス作り～」

専攻科福祉専攻「楽しくラクラク介護術・押し花でしおり作り」



ほうき作りで交流～魔女集会～

2022年、地域連携活動により横内地区の方が植えていた3本のコキアを130本に増やすことができました。コキアは、夏は爽やかな緑色を、秋には燃えるような赤色を楽しめます。また鑑賞だけではなく、その実は「とんぶり」といい、「畑のキャビア」として秋田県の名産になっています。そして昔よく行われていたのが、その茎を使った「箒(ほうき)作り」です。作り方を横内地区の方が再現して伝授してくれるということで、学生や地域の方を対象にした体験イベントを開催しました。イベント

名の「魔女集会」は、若い人が興味を持ったりワクワクしたりするようにと、高校生が考えてくれました。

2023年4月、ほうき作りを教えてくれたのは、3本のコキアを育てていた90歳の女性です。まずは専攻科の学生7名が作り方を学び、次に幼児保育学科の1年生や経営法学部の留学生と大学院生に作り方を伝え、総勢66名がほうきを作りながら交流を図りました。



青森中央経理専門学校 青森中央文化専門学校



「青森ナイチンゲール」衣装デザイン・制作

青森中央文化専門学校では、世界最大のアイドルフェス「TOKYO IDOL FESTIVAL 2023」全国選抜LIVEに出場する「青森ナイチンゲール」の衣装をデザイン・制作しました。

プロデューサーである近藤 金吾様からの依頼を受け、今回担当したのは、トータルファッション科アパレル専攻2年の奈良岡 茉実さん・Chiaさん・Reiさん・Kotoさんの3人のメンバー様から衣装に対するリクエストをお聞きし、デザインを考案。制作過程でのフィッティング調整を経て、ねぶたの跳人衣装をアレンジした青森らしい衣装が出来上がりました。

惜しくも決勝ライブに駒を進める事は出来ませんでしたが、自分の創った商品販売を目指す奈良岡さんにとって大きな自信と将来に繋がる経験となりました。



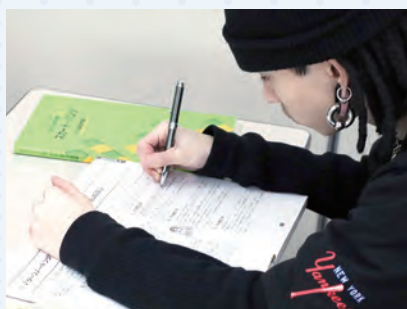
青森中央文化専門学校 授業風景

公式 Instagram はこちら



入学式が無事終了し、新入生は徐々に本格的な授業内容に取り組み始めました。アパレル専攻はセミタイトスカートの製図でパターンメイキングの基本的な技術を学び、ファッション販売専攻はファッションアドバイザーになるためには欠かせない技術であるロールプレイングを実践。学園祭やBunka Fashion Liveの衣装を制作する服飾造形では、洋裁用具をはじめ職業用ミシン・アイロン等の使い方を学び、早速スカートの制作を進めるなど、どの授業も初めての経験を楽しみながら日々勉強に励んでいます。

2年生は就職活動と同時進行でBunka Fashion Liveに向けた衣装のデザインに取り掛かっています。また、早くも資格取得に向けた試験勉強も始まり、4月から忙しいながらも充実した時間を過ごしています。



青森中央学院大学経営法学部へ編入学

2023年3月に青森中央経理専門学校経理情報科経理事務コースを卒業した森花道さんは、4月から青森中央学院大学経営法学部経営法学科の3年生として引き続き勉学に励んでいます。

森さんは専門学校在学中、簿記やFP(ファイナンシャル・プランナー)などの資格を取得したことにより、もっと専門的な知識・技術を身に付けたいという意欲が高まり、編入学を選択しました。本学園には「設置校減免制度」という学園設置校(青森中央学院大学・青森中央短期大学・青森中央経理専門学校・青森中央文化専門学校)の卒業生が新たに学園設置校へ入学した場合、入学金が免除される制度があります。専門学校から編入学を選択する学生は少ないですが、編入学という選択肢は、学生自身のこれからを考える際の可能性を広げる選択肢になるのではないのでしょうか。



観光コンシェルジュコース タイ・泰日工業大学の学生と交流しました

コロナ対策も緩和された5月、観光コンシェルジュコースが青森中央学院大学にサマーキャンプで来日しているタイの泰日工業大学の学生と、4年ぶりの連携授業を実施しました。

5月10日の歓迎会に始まり、5月11日は泰日工業大学の学生と一緒に、グループに分かれて青森駅周辺の街歩きや、ねぶたの家ワラッセ見学、のっけ井体験。5月16日は学生一人一人がテーマを決めて青森県の観光地を紹介。5月18日は三内丸山遺跡見学等、青森観光のプログラムに同行しました。

6月1日・2日の活動報告会や送別会等では、楽しい時間を振り返り交流を深めました。



青森中央経理専門学校・青森中央文化専門学校 「オープンキャンパス」これからの予定

お申し込みはこちら



- 開催日 2023年7月1日(土)、8月8日(火)、2024年1月27日(土)
- 開催場所・時間 本学キャンパスにて 受付12:30～／開始13:00～16:00
※開催日により異なる場合もありますので申し込みの際に確認して下さい
- 開催内容 学校紹介・施設見学・入試相談・体験授業等
- 備考・事前予約制です
・アウガ前からの無料送迎バス有



附属第一・第二・第三幼稚園／ 中央文化・浦町保育園

教育方針

健康で明るく心豊かな子ども

●友達と仲良く遊ぶ

●思ったことははっきり話す

●よく見、よく聞き、よく考える

●自分のことは自分でやる

附属第一幼稚園



絵本だ～いすき♡
忍びてかっこいいな～!



附属第二幼稚園



かぜよ～ふけふけ～
元気におげ★こいのぼり

附属第三幼稚園



始業式 新・はくちょう組
びっしりと決まっています



自分たちで見つけた「春」のすごろくを作ったよ!
「エビを2匹釣ろう」「ヤッター捕まえた!!」



おたんじょうびおめでとう!!
4歳になったよ!



ポカポカ陽気
うぐいす組の園庭遊び、気持ちいい!



緑の幼年団になって新町で募金活動をしたよ。
たくさんの方に募金してもらって嬉しかったよ!!



お散歩きもちいいな～
かわいいおはなも、みつけた♪



今年もおいもさん大きくな～れ
心をこめて植えました

中央文化保育園



合浦公園でお花見♡
とってもきれいでした!



畑にミニトマトをうえたよー
大きくなってね～

浦町保育園



5月8日、年長組5歳児が
看護の日・看護週間事業で
出張教室に参加しました。
看護師さんの夢をかなえてね。

教諭・保育士の責任と喜び

「ぴち〜！（みき）」、「しゅんしゅ〜！」と、お話が上手になってきた可愛い子どもたちと賑やかな毎日を過ごしています。私自身、未満児クラスの担任は今年度初めてとなり、これまでの保育経験を活かしながらも、日々勉強・学びの連続です。先輩はもちろん、時には後輩からも見習うことはたくさんあり、保育に正解やゴールは無いなと改めて感じます。

1日の中で、いろいろな子どもの姿を想定していても、不意に予想外の出来事が起きる時もあります。保育者は“楽しさ”の中にも、五感を使って子どもたちの様子や変化に気づき対応す

認定こども園青森中央短期大学附属第二幼稚園
早坂 美紀先生

る臨機応変さが大切だと強く感じます。

小さい子どもたちは、1日1日の成長が早く、昨日できなかったことができるようになったり、昨日よりも笑顔がみられるようになったり、些細なことにも喜びを感じます。子どもたちと気持ちを共有できる日々に感謝しながら、これからも「幼稚園だいすき！先生と一緒にだと楽しい！」と思ってもらえるような保育を続けていきたいと思っています。

子どもたちと成長する

昨年出産をし、二児のママとして今年4月から復帰させていただいています。慌ただしい毎日ですが、収穫もたくさんある毎日です。親になり、この仕事の良さ、楽しさを改めて感じています。仕事と家事・子育ての両立を自分が体験することにより、保護者の方の大変さや気持ちがわかるようになりました。

今年度は3歳児を担当させていただいています。毎日泣いていた子が楽しそうにお友だちと遊び始めたり、元気に挨拶をしてくれたり、少しずつ成長していく子どもたちの姿が見られてとても嬉しいです。

子どもたちの成長する姿を近くで見守ることができ、でき

認定こども園青森中央短期大学附属第三幼稚園
佐藤 彩香先生

るようになったという成長の瞬間にも立ち会うことができるのは、とても達成感があり、感動します。さらにその嬉しさを子どもや保護者、保育者同士で共感できるのは、保育者だからこそできることだと思います。

嬉しい気持ち、楽しい気持ち、小さなことに感動して温かい気持ちにさせてくれる子どもたち。私も子どもたちの素直さを見習い、人と人との関わり大切さを感じながら、心豊かな保育を目指して頑張っていきたいと思っています。

経験の積み重ね

中央文化保育園で保育教諭として勤務して5年目になります。昨年は5歳児の担任をし、初めての経験ばかりで戸惑いも多くありました。ですが、子どもたちを小学校へ送るために、自ら考えて行動する力をつけていけるよう、日々一人ひとりと向き合いました。子どもたちとのやりとりや、たくさんの行事を通して成長していく子どもたちから、気づかされることが多くあり、充実した日々を送ることができました。卒園式では、担任として巣立つ姿を見届けられ、大切な思い出となりました。保育士は大変なこともありますが、それ以上にやりがいがあり、素敵な職業だなと改めて感じ、頑張ってきたなと

幼保連携型認定こども園中央文化保育園
工藤 なな先生

心から思いました。

今年度は4歳児の担任となり、2年前に担任だったので、成長ぶりをまた近くで見ることができてとても嬉しいです。8名と少人数ですが、他のクラスに負けないうくらい元気いっぱいなので、それぞれの個性をさらに引き出し、子ども主体の楽しい保育をしていきたいと思っています。また、保育者同士で言葉がけや接し方など日々の保育の質を高め合い、経験を活かしながら、さらに楽しい保育を目指していきたいです。

読み聞かせたい一冊の絵本

幼保連携型認定こども園浦町保育園 佐藤 奈津美先生

しりとりしましょ！たべものあいうえお

さいとうしのぶ 作（リーブル）

この本はタイトルの通り50音に沿って、順番にかわいいイラストが付いてしりとりをしていく内容ですが、50音だけでなく「ば」や「が」から始まるページもあり、またいろいろな食べ物や調味料などがたくさん出てくるので、「こんな食べ物もあったね」「こういうものもあるね」と気づくこともできます。ページをめくると、ラーメン屋さん、公園、小学校、病院など場面も次々変わっていき大人でも楽しめます。この本を繰り返し読むことでいろいろな食べ物を知り、また言葉あそびの内容も豊かになってきている。そんな一冊です。



2023年度入学式を挙行了しました

2023年4月3日に青森中央学院大学と青森中央短期大学、4月6日に青森中央経理専門学校と青森中央文化専門学校の入学式を挙行了しました。新入生ならびにご家族の皆様に、改めてお祝い申し上げます。夢の実現に向けて充実した学生生活を送られますよう、教職員一同努めてまいります。

青森中央学院大学・大学院

経営法学部161名、看護学部76名、別科助産専攻5名、大学院9名の新入生を迎えました。



青森中央短期大学

食物栄養学科49名、幼児保育学科40名、専攻科福祉専攻7名の新入生を迎えました。



青森中央経理専門学校・青森中央文化専門学校

青森中央経理専門学校20名、青森中央文化専門学校9名の新入生を迎えました。



正門ひろば eⁿ(えん)オープン



2023年5月13日、新しくなった青森田中学園正門のリニューアルオープニングイベントが開催されました。当日は、青森中央短期大学附属第一幼稚園の参観日や、青森田中学園のオープンキャンパスも行われ、たくさんの地域の方々にお披露目することができました。

新しい正門は、「正門ひろば eⁿ(えん)」と命名されました。2021年に策定された「キャンパスブランドデザイン」に基づいて、キャンパスの視認性を高め、学園内外の様々な人を誘う開かれたキャンパスの玄関口として整備されたもので、建学の精神「愛あれ (LOVE) 知恵あれ (WISDOM) 真実 (まこと) あれ (TROUT)H)」のオブジェを正面に、芝生の広場と、かつて正門にあったヒマラヤスギを活用した木製ベンチを配した憩いのスペースとなっております。

イベント当日は、キッチンカーや学生によるサークル発表が行われ、イベントをにぎやかに演出しました。



公開講座これからの予定

お問い合わせ：公開講座担当 TEL:017-728-0131 FAX:017-738-8333

一部プログラムが変更となる可能性がございます。詳細は二次元コード、学内設置または配付のチラシ等よりご確認ください。

*まちなかキャンパス公開講座2023「ニュースがもっとよくわかる教養講座」

- 7月8日(土) 第2回「同性婚導入についての最近の裁判」
- 9月2日(土) 第3回「コンビニが抱える食品廃棄問題とロスチャージ会計」
- 11月4日(土) 第4回「日本からみた韓国社会の理解：政治・文化・経済の観点から」



*まちなかキャンパス公開講座2023「人生100年時代、より健康に生きる」

- 7月8日(土) 第3回「“あたらない”生活を送ろう～生活を見直して脳卒中予防～」
- 9月2日(土) 第4回「10歳若返る睡眠法」
- 11月4日(土) 第5回「フレイル予防で目指そう!健康長寿!」



*ビオトープ公開講座

- 7月22日(土) 講座②「セミの羽化鑑賞会」



*2023年度夏期 高校生向け 公務員試験対策講座

- 7月29日(土)・7月30日(日) 会場：青森中央学院大学7号館711教室
- 8月1日(火)～8月31日(木) オンデマンド教材配信



*青森中央文化専門学校公開講座

- 10月23日(月)・11月6日(月) ビーズアクセサリ講座「ブローチ」
- お問い合わせ：フレンドリーウィンドウ TEL.017-752-8660



新教職員紹介

青森中央学院大学

* 経営法学部



教授 **原 俊之** (はら たかゆき)
 出身 東京都
 担当 労働法、社会保障法、法学入門A、
 暮らしと法律、【大学院】労働法特論I・II



准教授 **園部 正人** (そのべ まさと)
 出身 東京都
 担当 知的財産法、経済法、法と経済



講師 **里見 文** (さとみ あや)
 出身 青森県
 担当 日本語I、学術日本語

* 看護学部



講師 **山田 基矢** (やまだ もとや)
 出身 青森県
 担当 地域在宅看護学領域



助手 **駒井 みどり** (こまい みどり)
 出身 青森県
 担当 母性看護学領域

青森中央短期大学

* 食物栄養学科



助手 **後藤 恵** (ごとう めぐみ)
 出身 青森県
 担当 アカデミックスキルズ、臨床栄養学、
 給食管理実習

* 幼児保育学科



事務 **三橋 真奈美** (みつはし まなみ)
 出身 青森県
 担当 実習事務

青森中央文化専門学校



教諭 **竹洞 春佳** (たけほら はるか)
 出身 青森県
 担当 ファッション販売専攻選択科目、
 ファッションビジネス

認定こども園青森中央短期大学附属第二幼稚園



宮川 萌々子 (みやかわ ももこ)
 出身 青森県
 担当 5歳児りんご組

認定こども園青森中央短期大学附属第三幼稚園



阿保 賢一 (あぼ けんいち)
 出身 青森県
 担当 送迎バス運転

幼保連携型認定こども園浦町保育園



七戸 詩音 (しちのへ しおん)
 出身 岩手県
 担当 0歳児つぼみ組



鈴木 あおい (すずき あおい)
 出身 青森県
 担当 1歳児つくし組

事務局



上西 怜佳 (うえにし れいか)
 出身 青森県
 担当 入試広報課



竹内 秀春 (たけうち ひではる)
 出身 青森県
 担当 総務課施設管理



花田 英里 (はなだ えいり)
 出身 青森県
 担当 総務課庶務



山内 星南 (やまうち せな)
 出身 青森県
 担当 総務課経理

青森田中学園報「こぶしの花」第109号

発行日: 2023. 6. 30

発行: 学校法人 青森田中学園

〒030-0132 青森市横内字神田12

TEL: 017-728-0131

FAX: 017-738-8333

<https://www.aomoricgu.ac.jp>

<https://www.chutan.ac.jp>

「青森中央学院大学・青森中央短期大学 学園広報」より
最新情報が盛りだくさん!



青森田中学園報
「こぶしの花」
バックナンバー



公式Facebook



公式Twitter



公式YouTube



公式Instagram

「こぶしの花」編集委員

編集長 加藤 澄

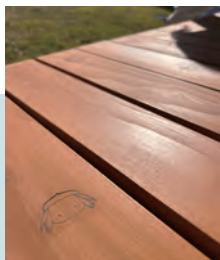
丸山 夏弥 柿崎はるな

外崎 秀香 杉田由佳里

大水 咲良 赤坂 裕子

中田 尋美 岩葉 悦子

町田美智子 高橋 晴美



「あたたかい一日」

青森中央経理専門学校・フォトサークルの皆さんの作品

撮影: 2023年4月~5月

左から 貝森由萌(2年) 奈良椎菜(2年) 鍋田実咲(2年)

学園報「こぶしの花」に投稿しませんか

「こぶしの花」編集委員会では、青森田中学園報「こぶしの花」に掲載する写真や情報を募集しています。学園に関する魅力的な作品やできごと等、在学生の皆さんからの投稿をお待ちしています。

■応募期間: 通年

■応募方法: 申込フォームまたはメール
メールの場合は

①件名「こぶしの花写真・情報投稿」

②本文「所属・学年・氏名・電話番号・写真タイトル」を記入し

写真データを添付してください。

なお、応募作品は、青森田中学園在学生が撮影した未発表のものに限ります。掲載が決まりましたら、こちらから連絡いたします。

■申込フォーム: <https://forms.office.com/r/SzQzdfPpKA>

■メールアドレス: acgukoho@aomoricgu.ac.jp

こちらの
申込フォームを
ご利用下さい

